

## 宿遺跡 第8地点

遺跡名	宿遺跡（多門氏館跡）
よみがな	しゅくいせき（おかどしやかたあと）
調査地点	第8地点
主な時代	縄文時代早期、中近世
調査地	富士見市諏訪2丁目2040-3、2041-1、2041-3、2040-3地先
調査面積	1,907㎡
調査期間	平成28年11月18日～12月16日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代早期の炉穴6基、中世の郭、土塁、堀跡</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文時代早期の縄文土器、中近世の陶磁器碗</p> <p>【概要】</p> <p>当遺跡は、近世初頭に周辺を知行とした「多門氏」の館跡と伝えられ、これまでの発掘調査で、堀跡や土塁、建物跡など、館跡の存在を証明する遺構が数多く確認されています。今回の調査地点は館跡の北西端部にあたり、本郭を囲む堀跡の外側に位置します。</p> <p>調査の結果、本地点は本郭の外に位置する外郭で、盛土をして郭を構築したことがわかりました。また、この郭のさらに外側には堀跡が巡っており、二重の堀跡を伴う館跡であることが明らかとなりました。また、郭である盛土の下からは炉穴が7基検出され、縄文時代早期に周辺に集落を形成して生活していたことが伺えます。</p>



調査前に確認された土塁と郭跡



堀跡①



堀跡②



縄文時代早期の炉穴